

年 組 氏名

1 まず、下の新聞記事をじっくり読んでみてください。(朝日小学生新聞より)

[Blank box for student name and class]

【福島第一原発事故】

2011年3月11日に発生した東日本大震災の大地震と津波により、福島県大熊町と双葉町にまたがる東京電力福島第一原子力発電所で起きた事故。大量の放射性物質が外にもれましました。現在も、7市町村に避難指示が出されています。14日には、双葉町をふくむJR常磐線富岡一浪江駅間が全線で再開予定です。

「正直、この日が来るとは考えていなかった」。4日、JR常磐線双葉駅の隣にできた町役場の連絡所の開所式で、伊澤史朗町長はそう話しました。町内で役場の仕事を再開するのは原発事故以来、約9年ぶりです。避難指示が解除されたのは、JR双葉駅とその周辺の道路など、町の面積の約5%です。

福島県双葉町は2011年3月に起きた東京電力福島第一原子力発電所(原発)の事故で、今まで全域で避難が続いてきました。まもなく9年4日、一部で避難指示が解除されました。中でも放射線量が高かった「帰還困難区域」の避難指示が解除されるのは初めて。町の様子と、町の人の思いを聞きました。(佐藤美咲、近藤理恵)

双葉町で再び暮らすことを心待ちにしている人たちがいます。「やっと先が見えてきた」と話すのは、双葉町出身で、今は福島県いわき市に避難している澤上晶さん(38歳)です。いつか、生まれ育った双葉町にもどり、家族で暮らすことを望んでいます。澤上さんが考える復興とは、もとの生活にもどること。「それ以上のことは望みません。双葉町に暮らしていたころ、よく家族や友だちと庭でバレーキューをしていた。そんな日がまた来たらうれしい」と話します。

福島県いわき市にある双葉町立双葉中学校2年の渡部颯斗さんは、5歳のときに原発事故が起きました。事故の2日後、東京に単身赴任していたお父さんのもとへ避難し、そのまま都内の小学校に入学しました。福島県にもどったのは小学6年生のとき。「もどるなら、知っている友だちがいる学校がいい」と、いわき市に仮設校舎がある双葉北小学校へ転入しました。渡部さんが双葉町の暮らしで覚えているのは、自然が豊かなこと、地域の人にかわいがってもらったことなどです。

2 東京電力福島第一原子力発電所は2つの町にまたがっています。その2つの町を答えなさい。

[Blank boxes for answer to question 2]

3 3月4日、福島県双葉町の一部(5%)で、何が解除されましたか。

[Blank box for answer to question 3]

4 双葉北小学校は、現在、何市に仮設校舎がありますか。

[Blank box for answer to question 4]

5 澤上さんが考える復興(ふっこう)とは、どんなことですか。

[Blank box for answer to question 5]